

1 つぎの文章を読んで問題に答えましょう。

夏休みのはじめ、悠真（ゆうま）は父と母と一緒に祖母の家へ出かけました。祖母の家は山のふもとにあり、都会のマンションとはまったく違います。窓から見える深い緑の山々、川のせせらぎや鳥の声が響き、まるで別世界にきたようでした。

到着した午後、祖母は縁側で扇子をあおぎながら言いました。

「悠真、この村に昔から伝わる遊びを教えてあげようかね。」

祖母が取り出したのは、竹で作られた水てっぽうでした。筒に水を入れて押し出すと、勢いよく水が飛び出します。悠真が川辺で試すと、冷たい水が顔にかかり、思わず笑い声をあげました。近所の子どもたちも集まり、みんなで水をかけ合いながらすぐに仲良くなりました。都会では味わえない自然の遊びに、悠真は夢中になりました。

翌朝、祖母は竹馬を用意してくれました。長い竹に横木をつけ、そこに足をのせて歩きます。簡単そうに見えましたが、悠真はすぐに転んでしまいました。くやしがつっていると、村の子どもが声をかけてくれました。

「足を高くあげるといいよ。」

「体を少し前に倒すと安定するよ。」

その言葉を思い出しながら何度も挑戦するうちに、少しずつ歩けるようになりました。十歩ほど進めるとき、悠真は思わずガッツポーズをしました。その姿に拍手がわき、失敗しても工夫すればできるのだと強く感じました。

夕方、祖母は囲炉裏のそばで昔を語りました。

「おもちゃ屋さんもゲームもなかったから、竹や石ころ、葉っぱを工夫して遊んでいたんだよ。自然の中には楽しいことがたくさんあるのさ。」

悠真は自分がゲームばかりしていたことを思い出しました。自然や工夫で遊ぶことの楽しさに気づき、

心の中が少し広くなった気がしました。

数日後、村のお祭りがやってきました。昼間から太鼓の音が鳴り響き、夜になると提灯の光がゆらめいて、広場は幻想的な雰囲気になりました。そこではけん玉やこま回し大会が行われていました。悠真も挑戦しましたが、最初は失敗ばかり。それでもあきらめずに何度も試し、年長の子に「ひもをなめらかに投げるんだ」と教わって、ついにこまがきれいに回りました。見物していた人たちから歓声があがり、悠真の胸は達成感でいっぱいになりました。

夜店では焼きそばやかき氷が並び、金魚すくい
の水面に光が反射してきらきらしています。祖母と一緒にスイカを食べながら、悠真は「昔ながらのお祭りって、温かいなあ」と心の中で思いました。

夏休みの最終日、帰る準備をしながら悠真は竹の水てっぽうと竹馬を手に取りました。祖母や友達と一緒に遊んだ宝物です。

「都会に帰ったら、友達にこの遊びを教えてあげたいな。」

電車の窓から山や川が小さくなっていくのを見つめながら、悠真は心の中でつぶやきました。

「昔の遊びは、人と人をつなぐ魔法みたいだ。遊びは時代や場所をこえて、人を笑顔にするんだ。」

こうして悠真の夏の思い出は、心に深く刻まれました。そして彼は、これからも工夫して楽しみを見つけ、人とのつながりを大切にしよう
と静かに決意したのでした。



(1) 悠真が祖母の家で最初に驚いた「都会とちがうところ」を、本文から二つ書き抜きましょう。



(2) 祖母が最初に見せてくれた遊び道具はどれですか？

- ① 竹馬
- ② けん玉
- ③ まり
- ④ 水てっぽう

答え () ()

(3) 竹馬の練習の流れを正しい順番に並べ替えましょう。

- ① 村の子がアドバイスをする
- ② 何度も練習する
- ③ 竹馬にのってみたがうまくできなかった
- ④ 何歩か歩けるようになる



(4) 悠真が竹馬で歩けたのはどれくらいですか？

- ① 三歩
- ② 十歩
- ③ 三十歩
- ④ 百歩

答え () ()

(5) 祖母は「昔はおもちゃ屋さんやゲームがなかった」と言いました。その代わりに何を使って遊んでいたと書かれていますか？ 本文から25字以内で書きましょう。



(6) 悠真はこま回しで最初なかなかうまくいきませんでした。どうやって成功することができましたか。

- ① あきらめてやめたから
- ② 年長の子にコツを教えてもらったから
- ③ 祖母に助けてもらったから

答え () ()

(7) 次の文が正しければ○、まちがっていれば×をつけましょう。

- () 悠真は「都会に帰ったら友達に教えてあげたい」と考えたのは、竹馬や水てっぽうが新鮮で楽しかったからである。
- () おばあさんは、昔からある遊びを通じて「自然と人とのつながり」を悠真に伝えようとしていた。
- () 昔遊びには危険が多く、子どもたちはあまり楽しむことができなかった。
- () 悠真が最も心に残ったのは、ゲームよりも体を使う遊びであった。

- (1) 悠真が祖母の家で最初に驚いた「都会とちがうところ」を、本文から二つ書き抜きましょう。

窓から見える深い緑の山々

川のせせらぎや鳥の声

- (2) 祖母が最初に見せてくれた遊び道具はどれですか？

- ① 竹馬 ② けん玉 ③ まり ④ 水てっぽう

答え (④)

- (3) 竹馬の練習の流れを正しい順番に並べ替えましょう。

- ① 村の子がアドバイスをする
 ② 何度も練習する
 ③ 竹馬にのってみたがうまくできなかった
 ④ 何歩か歩けるようになる



- (4) 悠真が竹馬で歩けたのはどれくらいですか？

- ① 三步 ② 十歩 ③ 三十歩 ④ 百歩

答え (②)

- (5) 祖母は「昔はおもちゃ屋さんやゲームがなかった」と言いました。その代わりに何を使って遊んでいたと書かれていますか？ 本文から25字以内で書きましょう。

竹や石ころ、葉っぱを工夫して遊んでいた

- (6) 悠真はこま回しで最初なかなかうまくいきませんでした。どうやって成功することができましたか。

- ① あきらめてやめたから
 ② 年長の子にコツを教えてもらったから
 ③ 祖母に助けてもらったから

答え (②)

- (7) 次の文が正しければ○、まちがっていれば×をつけましょう。

- () ○ () 悠真は「都会に帰ったら友達に教えてあげたい」と考えたのは、竹馬や水てっぽうが新鮮で楽しかったからである。
 () ○ () おばあさんは、昔からある遊びを通じて「自然と人とのつながり」を悠真に伝えようとしていた。
 () × () 昔遊びには危険が多く、子どもたちはあまり楽しむことができなかった。
 () ○ () 悠真が最も心に残ったのは、ゲームよりも体を使う遊びであった。